

【NEWS RELEASE】

2020年1月6日

各位

株式会社三井住友フィナンシャルグループ

三井住友フィナンシャルグループ 執行役社長 グループ CEO 年頭メッセージ要旨

本日、三井住友フィナンシャルグループ（以下、当社グループを総称して「SMBCグループ」）執行役社長 グループ CEO 太田 純は、グループ会社の役職員に対して以下の趣旨のメッセージを送ったのでお知らせします。

【要 旨】

昨年は、「令和」という新しい時代が幕を開け、ラグビーワールドカップでは、日本代表が強豪相手に一歩もひるむことなく、ベスト8まで勝ち残るなど素晴らしい活躍をみせた。新しい経営体制の下でスタートしたSMBCグループも皆の頑張りによって、着実な第一歩を踏み出すことが出来た。

2020年はオリンピックイヤーで、選手にとっては、まさに集大成の年となる。我々にとっても、今年は今中期経営計画をしめくくり、新たな3年間のスタートを切る重要な年である。

金融を取り巻く環境は、低金利の長期化に加え、保護主義の台頭、デジタル化の進展など、先行きが不透明かつ不確実、そして複雑な状況が続いている。こうした変化の真ただ中において、「最高の信頼を通じて日本・アジアをリードし、お客さまとともに成長するグローバル金融グループ」を実現するために、皆と共に、日頃から心がけ、実践していきたいことを2点申し上げる。

1点目は、「"Customer First"、お客さま本位の徹底」。

変化の激しい時代だからこそ、「お客さまのために何ができるかを徹底して考え、より良いサービスを迅速に提供し、お客さまに満足してもらう」という、ビジネスの原点をぶらさないことが大切だ。

2点目は、「チャレンジを続けること」。

具体的には、私が社長に就任して以来発信し続けている「カラを破る」という取組をより一層進めてほしい。これまでも、既存のやり方や古くからの考え、自分自身の限界や、組織の壁にとらわれず、新しいことに積極的に挑戦してほしいと申し上げてきた。

そうした中で、様々な取組が出てきており、例えば、これまでの金融ビジネスのカラを破り、金融の領域を越えた新しいビジネスを創り出した担当者に、新会社の社長として就任してもらった事例もある。

また、ある事務職員は、日々の事務作業を効率化したいという思いから、RPAを活用した業務交通費精算ロボットを開発した。その際もらった感謝の言葉が、モチベーションとなり、その後も様々な業務効率化のロボットを開発し、現在ではプログラミングの資格まで取得している。こうした日々の業務におけるカラを破る挑戦が、業務の効率化のみならず、自身のスキルアップにまで繋がっている。

このような積極的な挑戦が、グループ全体に広がってきていることに加え、皆が持ち場持ち場で様々な工夫を凝らして業務に取り組んでいることを頼もしく感じる。今後も、一人ひとりが、Customer Firstの精神で、チャレンジを続けることで、SMBCグループ全体が進化していくと確信している。

今年は東京で56年ぶりとなるオリンピック・パラリンピックが開催される。前回の東京オリンピックでは、新たにリアルタイムの競技速報システムが開発され、翌年、そのシステムを我々が日本初のオンライン勘定システムとして導入し、銀行ビジネスの革新に繋がった。

今大会でも、「史上最もイノベティブで、世界にポジティブな改革をもたらす大会」というビジョンのもと、世界最高水準のテクノロジーが活用される。56年前には、今の金融ビジネスのあり様が想像できなかったように、これからの50年も我々は、今からは想像できないカタチに進化していく。「皆一人ひとりのチャレンジが、未来の新しい金融のカタチを創る」。是非、そうした誇りとやりがいを感じ、日々の業務に邁進してほしい。

以 上